海外体験記

テキサス大学留学体験記

医学部 医学科 5年
山﨑 藍（やまざき あい）

修了証書授与式にて

私は2015年6月24日から8月14日まで、テキサス大学のサマーリサーチプログラムに参加させていただき、Department of PathologyのDr. Actorの研究室で、「BCG感染細胞が産生するサイトカインにヒトラクトフェリンが与える影響」というテーマで研究に参加しました。こちらの研究室は、教授のDr. Actorと助教授のDr. Hwangを中心として、夏などには研究を手伝ってもらう人やサマーリサーチプログラムで来た学生が研究に参加するという形をとっていました。人数としては少なく、先生方との距離は近かったように思います。また、研究室間での交流は盛んで、私も実験中に機械をお借りしに他の研究室にもお邪魔したりしていました。渡米前は「英語の環境でちゃんと実験ができるのだろうか？」と心配でしたが、徳島大学の三年次研究室配属が役立ったのか、その心配は杞憂でした。ところが、大問題だったのはディスカッションでした。どのサイトカインを調べるか、またその結果がどうなるかという予想を聞かれ、自分の思うところを述べると先生は「さあ、それはどうかな？」と仰るばかりで、その場で今までの結果や先生ご自身の見解は教えていただけません。きっと自分で過去の論文を調べたり、疑問点を明確化して質問させようという教育的配慮だったと思いますが、英語の問題だけではなく、釈然としないのは何なのかを明確にすることが難しく、また「執筆が二年遅れているのよ。」といって常時パソコンに向かい論文を書いたり実験している先生を見ていると気がひけて、結局受け身に過ごしてしまったように思います。

私の毎日はこのような感じで、臨床の現場を見る機会はありませんでしたが、短期で近隣の大学などに通う学生がシェアハウスのような形で滞在するところを見つけて滞在していましたから、幸運なことに期間の後半は、テキサス大学にローテーションできている医学生二人と一緒になりました。彼女らは、起きている間は、料理か、ジョギングか、勉強かで、かなりストイックに生活していました。また、臨床の現場で目にする治療や見解に、確固たる意見を持ち、「間違った治療をされているのを見ると憤りを感じるのよ。」と私にぼやいていました。実際の正誤は分かりませんが、アメリカでは医学生でも医療者としての誇りと意見をしっかりと持っているのを肌で感じました。

早いものでもう、あれから一年が経とうとしています。CBT／OSCEを終えて5年生となり、いよいよ臨床実習が始まりました。今までの不勉強を痛感する毎日が続いていますが、この留学体験は、それにめげることなく知識や技能はまだまだ至らないけれども、自分も医療者であるという誇りと責任をもって実習に臨もうという気概を持つ良い契機になっているように思います。

実験中の筆者

滞在していた部屋の様子

研究所のメンバーと共に

What's happening?

留学生滞在記

日本で成長した私

工学部 化学応用工学科 4年
Nguyen Thi Tuyet Mai
［ベトナム］（グエン・ティ・ツェット・マイ）

工学部化学応用工学科4年のグエン・ティ・ツェット・マイといいます。ベトナムのホーチミン出身です。仙台で2年間日本語を勉強した後、2013年4月から徳島大学で勉強しています。高校生のとき、日本の大学に留学していた兄の話を聞き、私も「日本に行って、日本の文化をもっと知りたい、日本で生活をしてみたい」と思うようになりました。高校卒業後に日本かアメリカ合衆国のどちらかに留学するチャンスがあり、私は迷わず日本を選びました。

徳島大学に入学してからは、毎日楽しく充実した生活を送っています。徳島は自然が豊かで、春・夏・秋・冬といった母国にはない日本の四季を肌で感じることができます。休みの日には、自転車で少し遠くの自然が豊かな場所に出かけることもあります。また、徳島大学で日本人の友人がたくさんできたことも、私にとってとてもうれしい経験です。友人と一緒に勉強をしたり、ご飯を食べに行ったり、旅行をしたりすることも、大学生活の楽しみの一つになっています。

大学では専門の授業をとりながら日本語のクラスを履修することもでき、私の日本語力をのばすのに役立っています。日常会話は大丈夫ですが、専門的な化学の授業内容を日本語で完全に理解することは難しいです。でも、分からないところは先生や友人に聞くと優しく丁寧に教えてくださるので、とてもありがたく思っています。

私は徳島大学の茶道部に所属しており、そこで日本の伝統的な文化や精神を学んでいます。茶道を通して、母国にはない日本の「和」の精神を強く感じています。日常生活のふとした瞬間にその「和」の精神を感じることができ、とても興味深いです。

日本での生活も6年が経ち、私の周りの環境が変わっただけでなく、私自身も大きく成長したと思います。将来のことはまだ具体的に決まっていませんが、日本で学んだことを生かして、母国ベトナムに貢献できるような化学の研究をしたいと考えています。そのために少しでも多くのことを徳島大学で学び、自分をもっと大きく成長させられるような大学生活を送りたいです。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンにて

阿波踊りの化応連にて（筆者は左から2人目）

茶道部の七夕茶会にて（筆者は左から2人目）